



## 四日市市クリーンセンター 独自の見せ方

四日市市環境部生活環境課 前川 篤

### ◆はじめに

四日市市は、三重県の北部に位置し、西は鈴鹿山系、東は伊勢湾に面した温暖な地域で、人口約31万人の商工業都市として進展してきました。

昭和30年代（1955～1964）頃、石油化学工場等の進出は、大気汚染を原因とする四日市公害といわれる深刻な公害問題を引き起こしましたが、市民、企業、行政が一体となって環境浄化に努力した結果、今では自然と調和した街となりました。

一方、廃棄物処理においては、1973（昭和48）年稼働の焼却施設（北部清掃工場）と1979（昭和54）年稼働の最終処分場（南部埋立処分場）で、年間約10万tonの処理を行うとともに、ごみの減量、資源循環型社会の構築にむけ、資源化の取り組みも進めてきました。

しかし、最終処分場の容量逼迫や、焼却施設の老朽化は深刻で、焼却灰の処理にも膨大な経費がかかるなど、本市としては新たな廃棄物処理システムの構築が喫緊の課題でした。

### ◆新たな廃棄物処理システムの構築

このような課題の解決に向けて、市の要求水準について十分に協議を重ねた上で、総合評価方式によってシャフト式ガス化熔融方式が採用されました。

この方式で灰をスラグ化することにより、最終処分量を従来の10分の1程度まで抑制するとともに、処理される廃棄

物の大部分を資源化することができる本市独自の新たな廃棄物処理システムが構築され、資源循環型社会に貢献し、そして多くの市民に親しまれる啓発施設としての役割を担う新たなごみ処理施設「四日市市クリーンセンター」が、2016（平成28）年4月に稼働しました。

### ◆啓発施設としてのこだわり

クリーンセンターでの「見せ方」、「伝え方」に関しては、市として永年温めてきた強い想いがありました。

ごみ処理施設は、最近では比較的住宅街に隣接した場所に建設されるケースも多くなってきました。しかし「迷惑施設」というマイナスイメージが根強く残っているのが現状で、なんとかこのイメージを払拭し、市民に親しまれるような「啓発施設」として、内容の充実を図れないかと感じていました。

そこで、新しい施設は安全で清潔な施設であることを知ってもらうため、可能な限り施設内をオープンにするよう、建設当時から綿密な打ち合わせを繰り返し、事業者と「何を、どのように伝え、どう表現するか」といった思いを共有し「見て」、「感じ」、「知る」ことができる見学コースの設置に努めました。

特に子どもたちを対象とした啓発については、「こだわり」をもって、可能な範囲で最大限の工夫を施しました。

製作においては、小学4年生の児童の

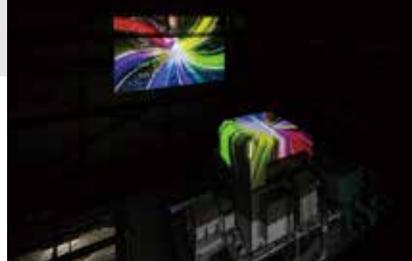


写真2 プロジェクションマッピングの手法による映像演出

社会見学を念頭に置き、リデュース（発生抑制）に重点を置いた構成で、あえて造形モノは作らず、イラストや映像での表現を軸に、表現の手法なども教育委員会と連携しながら協議してきました。

### ◆「見せ方」へのこだわり

子どもたちをはじめ、より多くの市民の方に見ていただき、ごみの減量が最も大切であるということの理解を深めてもらえるよう、さまざまな自治体の取り組みを参考にさせていただきながら、見学に訪れた子どもたちが、ごみ減量の必要性はもとより、日々の生活の中で「自分にできること」を発見できるような、そんな見せ方、伝え方ができないか検討を進めてきました。

例えば、施設内の廊下などは明るいイメージにされることが多いですが、あえて室内のトーンを落とし、「この先に何かがあるだろう」と興味をもたせる工夫を、「空間演出」の技術を用いて照明の照度や照射角度まで細かく調整して表現しています（写真1）。

また映像についても、リデュース（発生抑制）に重点を置いたオリジナルのストーリーを設定し、エンディングには発電機に映像を写すプロジェクションマッピングの技術を取り入れました（写真2）。子どもたちの興味を最後まで持続させ、楽しく学べるような仕掛けや、実物のプラントの大きさが感じられるよう意

識したレイアウトに努め、ごみ処理施設ではあまり例のない見学コースが実現できたと思います。

施設が稼働した初年度は、地元の方、子どもたちはもとより、市外、県外、海外の方まで、延べ6千人近い方が見学や視察においてになりました。4年目を迎える現在もおおよそ5千人近い方に来ていただき「ごみ処理施設とは思えない」という嬉しい感想をいただくなど、好評を得ています。

### ◆これから・・・

そんな想い入れのあるクリーンセンターも早いもので、今年で4年目を迎えます。

市民アンケートの結果と施設の能力を踏まえて、廃プラスチック類を中心に分別方法を大幅に見直し、わかりやすくしたことで、市民の分別に対する負担感が和らいだのか、広報部門が実施している市民満足度調査の結果も、ごみ処理が3年連続で1位となりました。

しかし、施設の運転状況を見ますと、ごみの排出方法がわかりやすくしやすくなったということからか、ごみ量の減少は鈍化している状況もみられるため、今後の動向を見極めながら、より一層3Rの啓発活動などに取り組んでいくことが重要と考えています。

ご教示いただいた自治体のみならずには感謝申し上げ、今後も施設の安全、安定運転に努め、市民に親しまれる施設になるよう努力してまいります。



施設を案内してくれるキャラクター達